ゴマダラカミキリムシの生態

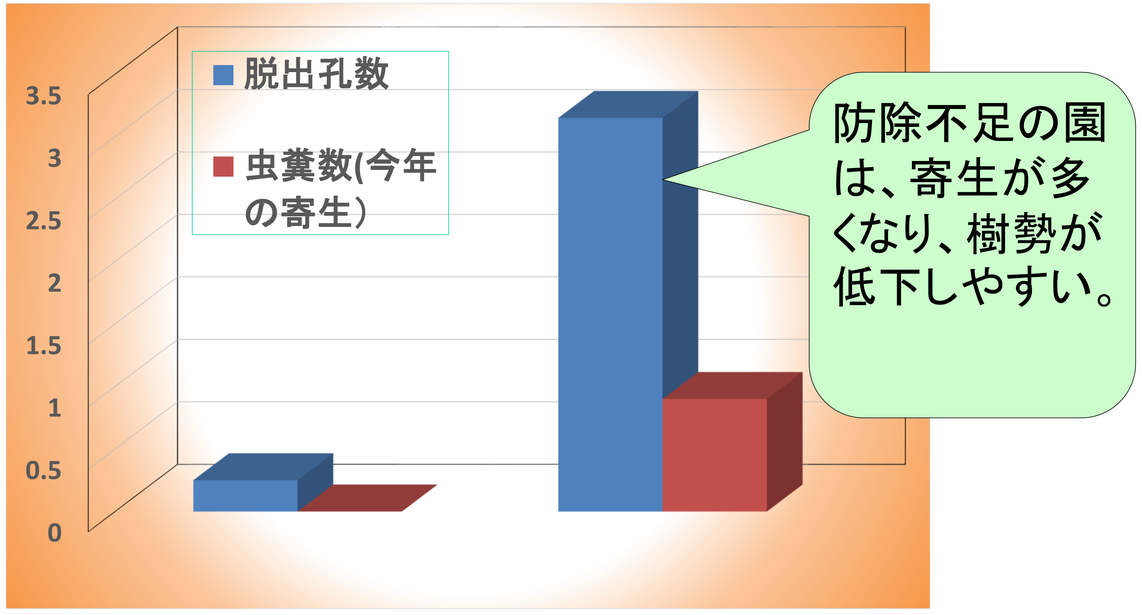
ゴマダラカミキリムシは、カンキツの他、ナシ、リンゴ等 において発生し、成虫は枝や葉を食害する。特に幼虫の被害は深刻で、形成層から木質部まで潜入して樹勢を低下させ、苗木では、わずか１頭の寄生で枯死に至ることもある重要害虫である。

～生態～

年1回の発生で、寄主範囲は広く、バラ科植物やイチジクにも寄生するが、カンキツを好む傾向にある。幼虫は幹内で越冬し、成虫は５月下旬から発生する。成虫は、カンキツ等の葉や枝を食害し、10～１５日後に産卵が始まる。産卵は、６月～８月にかけて、地際部から２０センチまでの主幹部に産卵する事が多い。約７日後に孵化した幼虫は、形成層を食害し、やがて木質部まで潜入する。多くは、翌年に羽化するが、８月以降に産卵された個体は、２年越しで成虫になる個体もある。

成虫

幼虫



強樹勢樹　　樹勢低下樹

図　脱出孔数、虫糞数と樹勢の関係

脱出孔

虫糞

強樹勢樹

樹勢低下樹

防除のポイント：早期防除で樹勢の低下を防ぐ。